デジタルトランスフォーメーション（DX）戦略とその取り組み

EKKグループのDXの取り組み

現中期経営計画「持続性ある企業体質の構築」においては、「DXの推進」を主要推進項目とし、各事業の業務分野での活動を進めています。これらの推進においては、デジタライゼーションを進める業務テーマを下記のとおり設定し、それぞれのDX目標を掲げて取り組んでいます。

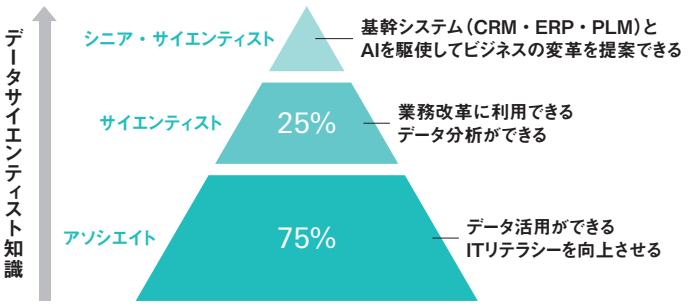
EKKグループにおける営業・生産・技術とビジネスに直結する各データについては、部門ごとに個別で蓄積され、その社内での活用方法等が課題となっていましたが、それぞれの基幹システム（PLM・ERP・CRM）を導入し、情報を集約することで、各部門におけるデータの二重入力といった「ムダの排除」が実現でき、業務全体の効率性を向上させています。また、これらのデータ活用においては、BIツールや生成AIの導入と活用によって、データ処理や分析時間の削減も図っております。これらの取り組みにより、迅速な意思決定が可能となり、EKKグループのビジネス拡大や収益性向上への一助のみでなく、各ステークホルダーへの新しい価値提供を目指しています。

デジタライゼーション	DX目標と具体的な取り組み	
スマートファクトリー	目標	IoTセンサーやAIを活用して、製造プロセスの効率化と品質向上を図る
	事例	**・画像検査技術の活用** 画像検査技術を用いて、目視検査にかかる時間と人員を削減 外観検査基準の定量化と品質記録の自動化を推進
データ活用	目標	基幹システム（CRM・ERP・PLM）を活用し、製品の需要予測や在庫管理を最適化
	事例	**・RFIDタグの導入とERPとのリアルタイム連携** 棚卸作業の効率化と在庫情報の一元管理化を推進 **・スケジューラとPLMの連携** 需要に合わせた生産計画を自動的に作成 生産計画作成の属人化やBOM/BOPの二重管理を解消
リモートモニタリング	目標	設備の遠隔監視とメンテナンスを行い、ダウンタイムを最小限に抑える
	事例	**・SCADAシステムの導入** 製造プロセスや設備の動作状況等を監視・コントロールし、そのデータを収集 生産実績入力工数を削減するとともに、標準工数時間の自動算出が可能に
サプライチェーン管理のデジタル化	目標	サプライチェーン全体における透明性とトレーサビリティの向上
	事例	**・サプライチェーンにおけるリスク管理** サプライチェーン情報を一元管理するシステムの構築を行い、 災害の発生時等には迅速な情報収集と対応を行う体制を整備

DXを推進する体制

EKKの経営企画室IT部門と、各部門（営業・生産・技術）が連携し、部署を超えたDX推進活動を実施しています。またこれらの活動については、本部長室長会、経営会議において、DXに関する取り組みとして定期的に共有しています。

DX人財の育成方針と状況

データサイエンティスト教育を推進し、デジタルを用いた業務改革を進める人材を育成します。製造系、事務系、営業系を問わず全部門を対象にデータサイエンティスト教育を実施し、「データサイエンティスト・アソシエイト」としてデータ活用能力とITリテラシーを底上げします。さらに25%を「サイエンティスト」として育成し、各職場でのDX施策推進の中核を担うことを目指します。また、2025年度は、BI（ビジネスインテリジェンス）ツールに関するトレーニングを社内で実施しています。

▼データサイエンティスト教育